

# 雨にも負けず 力強い走り



一斉にスタートを切る伊達ハーフマラソン参加者

## 伊達ハーフマラソンに3600人出場



発行所  
北海道新聞社  
郵便番号 060-8711  
札幌市中央区大通西3-6  
電話 011(221)2111  
©北海道新聞社 2018



どうしん電子版  
www.hokkaido-np.co.jp

詳しくは道新道スポで  
ご購読の申し込み  
011-210-4041-104

道新 学ぶ 楽しむ 役に立つ  
ぶんぶんクラブ  
TEL. 011-210-5261  
道新ぶんぶん 検索

### 塩田さん選手宣誓 沿道の声援熱く

道内のマラソンシリーズ「回春一番伊達ハーフマラソン」の幕開けを告げる第31回マラソン(実行委、北海道新



選手宣誓する旭川の塩田富治さん

聞社主催)が15日、総合公園だて歴史の杜を発着点とするコースで開かれた。3キロ、5キロ、10キロ、ハーフマラソン(21・0975キロ)の4種目に計約3600人がエントリーし、早春の伊達市内を快走した。

小学生から高齢者までが参加し、開会式では旭川から参加し、参加者中最高齢の塩田富治さん(91)が「陽春さわやかな伊達路を最後まで笑顔で元気に駆け抜けます」と選手宣誓した。

ハーフマラソンは伊達の市街地を出発し、旧国鉄胆振線跡地に造られたサイクリングロードを北上した。長流川にかかる北の湘南橋を通り、春耕シーズンを迎えた田園地帯を進んだ。

今大会はあいにくの雨に見舞われたが、ランナーたちは道内でも温暖で雪解けの早い伊達を舞台に設定されたコースをさっそうと駆け抜けた。

多数のボランティアが交通整理や給水などに携わり、大会運営を支えた。沿道では市民や出場者の家族らが声援を送り、ランナーを後押しした。



サイクリングロードを走る選手たち



元気いっぱいスタートする小学生駅伝の選手たち

ゴール目指し  
しのぎを削る



給水所でボランティアが用意したコップを手取るランナー



出場者のために、きのこ汁を準備するきのこ王国のスタッフ



ゴールを目指す車椅子ランナー



上位を目指し、しのぎを削るランナーたち

## より安全に さらに安心できる医療の提供を…。

健康であることが、幸福感の基本となります。

医療の基本は患者様が何のストレスも感じることなく、安心できる治療の提供を実現するところにあります。

いぶり腎泌尿器科クリニックは常に患者様の立場を第一に考え、フットワークの良い医療を基本理念に全スタッフが患者様のためにいま何が必要かを常に意識し、素早く対応できる医療機関であることを目指しています。



医療法人社団 ————— 泌尿器科・血液透析  
**いぶり腎泌尿器科クリニック**

■院長 坪 俊輔 ■副院長 竹内 豊 ■副院長 仲山 明宏

伊達市梅本町2番地15 TEL 0142-21-1400 FAX 0142-21-1401  
<http://www.ibujin.com>